「ひどい…政争のとばっちり」

流された生活法案

強い怒りと不信の声

水俣病「独自に補償進める」 互助会

第六十二通常国会は五百とちやく閣議した。二百五十の賛成を費やし、二十一回の修正採決を繰り返したあげく「天学措置法」「防衛三法」なる政府与党にとっての重要法案は成立した。ところが「公害三法」「身障者扶養保険」など国民にとっての重要法案五十件は政争のとばちりを受けて日暮に流れしまった。以下は生活法案関係者の強い怒りと不信の声である。

「血の通った政治を」

▽イタイイタイ病患者 公害医
生活法案は福山のイタイイタイ病、熊本、新潟の水俣病、四日市のセリソウなどの公害病患者の医療費を救済する法案だった。
イタイイタイ病対策協議会の小松久会長はそれでも「あの法律には期待があるので実際のイタイイタイ病患者の四分の一しか適用されない。だから廃案になってもそれほどショックとは思わない。今後は患者全部を救う法案をめざしてたたかっていく」と語る。

イタイイタイ病など公害病患者は現在認定されたものだけで二百人おり、この通算に一月千円、入院者に四月千円、重症者に月額千円を出さずして九千円を出すことになっていた。
▽水俣病患者 熊本水俣病協会
派代表の磯辺栄蔵さんは「公害法案が政府、自民党の政策の犠牲になつたのは社会の下層で苦しむ国民が無視されていることだ。われわれは真の民主政治が行なわれる

ことを願ひと病者の家族でつづつている山本亦田互助会会長は「法制定を待つて補償解決をしよとの意見もあったが、待たずよかつた。われわれの主張が通つて処理委員会が設けられたが、もし成立を待っていたら選ばれるはかりだった。われわれは独自に補償を進めていく」と語つてい

て切実な法律だった。ぜひぜひ通してほしかった。仮に秋の臨時国会で成立しても、それまでわが子の将来に不安を持ちながら死んでいく親もあるのだ。これらの人たちのことを購買さんは考えないのだろうか」とがっかり肩を落としていた。
▽福祉年金受給者 国民年金法改正案は福祉年金のベースアップ

と所得制限の緩和が目的。すでに厚生行は法案通過を見越し、新制度の支給額で計算していた。また旧制度で計算し直すには一月かかり、支給は一月も遅れるという。社会福祉法人全国社会福祉協議会の見坊和雄福祉部長は「国民

の生活を犠牲にした国会の態度はひどすぎる。血の通わぬ政治とはこのことだ」と不満をぶちまける。
▽日雇労働者 失業保険法改正案によつて弊事業所の労働者約二百万人にも保険金が払われ、日雇労働者の失業保険金も日額一割五割から七割十割になるはずだった。しかし八百十

では「昨年の組合大会で幾低八百円に保険金アップを決めている。改正されたとしても差別は残るし、上げ幅も少ないので、基本的にこの改正に反対だ」とい